第三十四回「全日本中学生水の作文コンクール」岐阜県優秀作文集

水について考える

主催　国土交通省、岐阜県

後援　文部科学省、全日本中学校長会

独立行政法人　水資源機構

水の週間実行委員会

「全日本中学生水の作文コンクール」について

「全日本中学生水の作文コンクール」は、次代を担う中学生の皆さんに、暮らしの中で体験している水にまつわる話や、祖父母、両親、先生から学び聞いた話などをもとに、「水」や「今後の水の使い方」について、考えていただこうという趣旨で、「水の週間」の行事の一環として実施しています。

今年は、第三十四回を迎え、このたび作文集としてとりまとめました。ぜひ御一読ください。

「第三十四回全日本中学生水の作文コンクール」

一・応募要領　①テーマ…「水について考える」（題名は自由）

②対　象…中学生（中学生と同じ学齢の者を含む。）

③原　稿…四百字詰め原稿用紙四枚以内で日本語により表記されたもの

④あて先…岐阜県県土整備部河川課（岐阜県内の応募者）

⑤募集締切日…平成二十四年五月十四日（到着分有効）

⑥版権等…○応募作品は個人作品に限る。

○応募作品の版権は国土交通省及び岐阜県に帰属する。

○応募作品は返却しない。

二・応募状況　応募学校数　一校　　応募総数　一作品（三年…一作品）

三・審　　査　応募作品について岐阜県で審査（地方審査）を行い、中央審査対象作文として国土交通省に推薦。なお、推薦作品が国土交通省の審査において入選。

目　次

国土交通省入選作品

「当たり前ではない水」……美濃市立昭和中学校三年…三原　優歩　3

国土交通省入選作品

「当たり前ではない水」

美濃市立昭和中学校
三年　三原　優歩

長良川。

きらきらと太陽を受けて輝く青い水が滔々と流れる。橋の上から覗き込むと川底の石の一つ一つまではっきりと、キラッと光る魚まで見える。鮎釣りの季節には、鮎の数より多いのではと思うほど多くの釣り人がならび、暑い日にはざぶんと飛び込む中学生の姿がある。そんな美しい活気ある川のあるところに私は住んでいる。

私は小学校の時に引っ越してきた。それまでは浄水器を使っていたのに使わなくなった。夏の渇水期はカルキの臭いが強く、飲むどころかシャワーを浴びるのもカルキ臭さが気になることさえあった。それが、浄水器を使わなくてもカルキの臭いがしない。何より、おいしい。甘いような気さえする。びっくりした。同じ水道から出てくる水なのに、こんなにも違う。長良川の伏流水を井戸を掘って水道水にしていると聞いて、長良川がきれいだからおいしいのだと感動したが、水道水のおいしさに慣れるのは早かった。いつのまにか、おいしい水、いつでもたっぷり出てくる水が当たり前になっていた。

東日本大震災。震災は、私にいろいろなことを気づかせた。水があるのは当たり前ではない。水はいつでも飲めるよう、いつでも使えるように誰かが作り、水道を引き、管理しているから使える。どこか一つでもだめになったら水は私のところには来ない。そんな当たり前のことに気づいたのは、バケツやペットボトル、様々なものをかかえ、給水車に並ぶ人々の映像を見た時だった。津波に流された水源地の井戸、地震で寸断された水道管。風邪が流行る中、手さえ十分に洗う事さえできない避難所の人々。胸が苦しくなってきた。自衛隊員が沸かしたお風呂に何日かぶりに、気持ちよさそうに入る人々。でも、そのお風呂に入ることなく、自衛隊員の人たちは着替えさえ持たず被災地に向かい、人のために働くのだと聞いた時には涙が出そうになった。いつでも温かいお風呂に入ることがどれだけ贅沢なものであるのか、きれいで美味し

い水があるのがどんなにありがたいことなのか、今まで考えたことすらなかったことが恥ずかしくなった。

「もったいないでしょ。」

シャワーや洗顔の時の水の出しっぱなしを今まで何度も叱られた。返事はするものの心のどこかで思っていた。いっぱいあるからいいじゃないかと。でも、やっと分かった気がする。きれいで美味しくて安心して飲める。使える水はどこにでもあるものじゃなくて、誰かの手によって守られ、作られ、届けられているものだということが。そして、いっぱいあるものではないということが。

今、アフリカの角と呼ばれるソマリア、エチオピアなどの国々で過去六十年で最悪といわれる飢餓が発生しているときいた。その原因の一つにもなっているのが干ばつによる水不足、それによる農作物の不作。多くの難民が生まれ、多くの人々が食糧不足により死に直面している。水は世界的に枯渇しており、農産物を育てるために欠くことができない資源であり、世界は水を巡って争おうとしている。

私の甘えは許されるのだろうか。長良川の豊かな水に恵まれたところに住んでいるからこそ、私が水の不足を感じるようになった時にはもう遅いと思う。水が豊かなところに住んでいるからこそ、水を汚さないためには、水を大切にするためには何ができるのかを考え、行動を始めなければいけないと思う。私が出来る事は小さいからやらなくてよいのではなくて、小さくても続けることが大切なのだと思う。面倒くさいと思わずにこまめに水を止めることを、水へのありがたさを忘れない気持ちを持ち続けることで続けていきたい。